

表紙制作者

長崎県・
私立純心中学校・純心女子高校
2年生
かつきさいり
香月彩里さん



高校生との対話で描く

私たちの学校
これからの学校



聞き手

VIEW21 編集部
統括責任者
柏木 崇

1998年4月号から生徒と教師の写真で飾られてきた本誌表紙。2020年6月号からは、臨時休業という想定外の状況下で、学校での学びの価値を捉え直した生徒のアート作品の力を借りて、引き続き、生徒と教師の関係を描きます。

「制作の途中、先生方から全体的に明るい感じにした方がよいというアドバイスをいただき、人物の表情や背景を変えていきました」（香月さん）。3点の習作を経て、今回の絵が完成した。



コロナ禍による制限の中で、 新しい発見がいくつもあった！

柏木 今回描いてくれたのは、生徒たちの話し合いを先生が見守っている授業中の様子ですね。まずは、この場面を描こうと思った理由を教えてください。

香月 私たちの学校では、授業中にグループで話し合うことが多いのですが、1学期はコロナ禍のため、そうした活動ができなくなりました。話し合いは私に多くの気づきを与えてくれましたし、何より友人たちとのそうした時間は楽しかったなと思い出しながら、この絵を描きました。私が得意なのは線画のイラスト風のタッチなのですが、今回の絵が載るのは先生たちが読む情報誌の表紙ということで、普段あまり描かないタッチにチャレンジしてみたんです。

柏木 本誌のために、新たな挑戦をしてくれたんですね。しかも、スマホを使って描いたそうですが、デジタルツールを使った作画には、これまでも取り組んできたのですか。

香月 絵を本格的に描き始めたのは小学4年生の頃で、中学生になってからは、アナログ作画よりもデジタル作画に取り組むことが多くなりました。アナログとデジタルでは制作時の思考プロセスがかなり違って、デジタル作画に取り組んでいる途中で別のアナログ作画の作品の制作に取り組んでも、なかなかうまくいかないんです。

柏木 同じ創作活動でも、使用するツールがデジタルかアナログかで頭の使い方が違うというのは面白いですね。

香月 今回の絵は、無料のイラストアプリを使って描いたんです。私が使ったアプリは制作時間も集計してくれるのですが、この絵の制作には今までにないほどたっぷり時間をかけました。コロナ禍によって、高校生もいろいろなことを制限されていますが、そんな中で自分の作品で世の中の誰かを楽しませることができればうれしいです。

柏木 香月さん自身も、コロナ禍の中での高校生活で苦労したことがきっとあったのでしょうか。

香月 ソーシャルディスタンスなど、新しい生活様式に慣れるのは大変でしたが、楽しいこともありました。例えば、オンラインでのコミュニケーションで人脈が広がったのもその1つです。対面でなくても、おしゃべりをしたり、情報を交換したりする中で、感謝や思いやりといった気持ちはしっかり伝わるんだと実感しました。

柏木 直接顔を合わせない中で、相手の気持ちをくみ取るのは難しいけれど、人と人とのコミュニケーションであることは変わらないですからね。大切なことに気づけたことで、日々の高校生活もよりよいものになりそうですね。

香月 私は放送部に所属していますが、今年の1年生は例年よりも部活動内での交流が少なく可哀想だなと思っています。他校の放送部とも連携して、生徒同士の新たな交流の場をつくるなど、後輩のサポートをしていきたいです！